

みんな生き生きTAROアート鑑賞
～認知障がいのある方とご家族編

認知障がいのある方とご家族のための鑑賞ツアーです。
太郎さんの作品を、一緒にゆったりと楽しみませんか。

10月2日(水) 10:30～11:30

対象 認知障がいのある方とご家族・介助者 定員 3組

場所 ガイダンスホール・展示室 料金 要観覧料

申込 電話受付(9/12(木) 10:00から受付開始)、先着順



みんなで描こう!～大好きな太郎作品～

“キッズTARO展”の作品を美術館で制作しよう! 皆さんは、太郎さんのどの作品が好きですか?絵画でしようか?彫刻でしようか?みんなで展示室を回り、好きな太郎作品について語り、スケッチをします。
大好きなTARO作品を描き、キッズTARO展に展示しましょう。

10月20日(日) 13:30～15:30

対象 中学生以下 定員 12名 場所 展示室、創作アトリエ

料金 300円 申込 電話受付(10/4日(金)10:00から受付開始)、先着順

*画用紙、画板(サイズ:六切り)、画材(色鉛筆、クレヨン、水彩絵具)は美術館でご用意いたします。
*当日、作品はお持ち帰りいただけません。制作した作品は、“キッズTARO展”で展示します。



第13回 キッズTARO募集 テーマ「〇〇愛」

美術館では岡本太郎作品と共に子どもたちの絵画作品を飾る、「キッズTARO展」を今年も開催します。今回で、13回目となります。テーマは「〇〇愛」。皆さんの「愛」にあふれた作品をお待ちしています。

募集期間 10月1日(火)～10月27日(日)*消印有効

展示期間 11月1日(金)～12月1日(日)予定

展示場所 ギャラリースペース(無料スペース)

作品サイズ 四つ切サイズ(38cm×54cm・縦横自由)以内



はいはい&よちよち美術館ツアー

小さいお子さんとご家族のための鑑賞ツアーです。太郎さんの作品を、お子さんと一緒にゆったりと楽しみませんか。

10月23日(水)、11月13日(水) 10:30～11:30

対象 3カ月～3才までのお子さんとご家族の方

定員 8組 場所 常設展示室 料金 無料(保護者のみ要観覧料)

申込 電話受付(10/23は10/2、11/13は10/30(水) 10:00から受付開始)、先着順



Green TARO Night

緑地の中に静かにそびえ立つ、高さ30mの母の塔が輝く一夜限りのスペシャルナイト。豊かな自然が奏でる音、夕暮れから暗闇になり吹く風の中、音と光と映像の幻想的な空間へあなたを誘います。

11月16日(土) 16:00～20:00 ※荒天時は翌日延期

場所 母の塔前広場 料金 無料

申込 不要。当日、母の塔前広場にお越しください

主催 川崎市市制100周年記念事業・全国都市緑化かわさきフェア実行委員会

問い合わせ 044-200-1206





美術館でフラワーレッスン

10月5日(土)
Vol.31「ハロウィン ハーベスト～実りの秋のパンキンアレンジメント～」

実りの秋。オータムカラーの花々や実、穂など秋の実りを取り入れて、収穫祭の賑わいをイメージしたアレンジメントを作りましょう。蓋付きパンキンの器はハロウィン飾りにもぴったりです。(9/11(水) 10:00受付開始)

11月23日(土・祝)
Vol.32「Bright honey Xmas～はちみつ色にきらめくホースシューリース～」

今年のクリスマスには、はちみつ色にきらめくホースシュー(馬蹄型)リースを飾りましょう。クリスマスの森のような針葉樹(生花)を馬蹄型に巻きつけたベースに、ハニーエローのオーナメントを飾り付けます。幸せを運ぶというホースシューリースを飾って、クリスマスを煌めく輝きで演出します。(10/23(水) 10:00受付開始)

12月21日(土)
Vol.33「エレガントモダンなお正月アレンジメント」

今年のお正月レッスンでは、ゴールドに紫のお花を合わせ、エレガントでシックなアレンジメントを作ります。オレンジ色をアクセントにしてモダンな雰囲気もプラス。お正月シーンを「粋」に演出しましょう。(11/20(水) 10:00受付開始)

開催時間 各日2回開催 ①10:30～12:00 ②14:00～15:30

講師 重田章子(日比谷花壇認定講師) 対象 どなたでも(小学3年生以下は保護者同伴)

定員 各回20名 場所 創作アトリエ 料金 材料費2,700円

申込 電話受付(受付開始日は各回の内容をご覧ください)、先着順

*11月・12月の画像はイメージです。
*10月・12月はプリザーブドフラワーのアレンジメントです。



クラウドファンディングへの御協力ありがとうございました

視覚に障害のある方に太郎作品に親しんでもらうためのプロジェクト実施に向けたクラウドファンディングに、多くの方からのご賛同・ご支援をいただき、目標額を達成することが出来ました。心より御礼申し上げます。

寄附金額:1,279,000円(目標額:1,200,000円 達成率:106.5%)

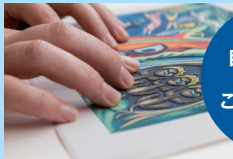
ご支援いただいた寄附金は次の3つの取組に活用いたします。

①視覚障害者向け館内案内パンフレットの作成(10月ごろより配布)

②立体的な「太郎作品紹介カード」の作成(開館25周年記念展より利用開始)

③視覚支援機器を用いた「鑑賞体験イベント」の開催(開館25周年記念展開催中に予定)

目標額達成! ありがとうございます。



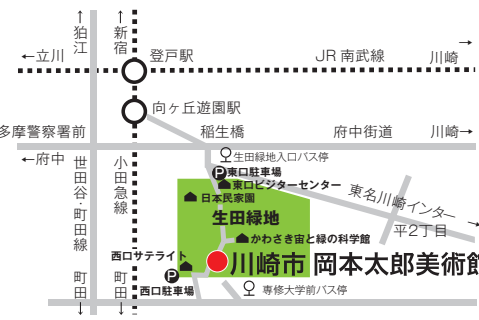
川崎市 岡本太郎美術館

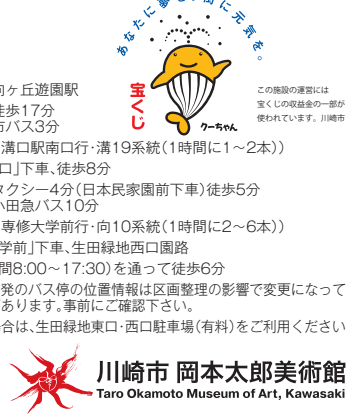
〒214-0032 神奈川県川崎市多摩区枋形 7-1-5 生田緑地内
TEL : 044-900-9898 FAX : 044-900-9966
https://www.taromuseum.jp

公式 X 公式 Facebook 公式 instagram 公式ホームページ

利用案内
開館時間 9:30～17:00(入館は16:30まで)
休 館 日 月曜日(祝日は除く)、
祝日の翌日(土曜・日曜は除く)、
年末年始、他に展示替えによる休館日あり
観 覧 料 展覧会ごとに異なります。

交通案内
●小田急線向ヶ丘遊園駅
ー南口から徒歩17分
ー南口から市バス3分
(5番のりば・溝口駅南口行・溝19系統(1時間に1～2本))
「生田緑地入口」下車、徒歩8分
ー南口からタクシー4分(日本民家園前下車)徒歩5分
ー北口から小田急バス10分
(2番のりば・専修大学前行・向10系統(1時間に2～6本))
終点「専修大学前」下車、生田緑地西口園路
(通行可能時間8:00～17:30)を通して徒歩6分
※向ヶ丘遊園発のバス停の位置情報は区画整理の影響で変更になっている場合があります。事前にご確認下さい。
●車利用の場合は、生田緑地東口・西口駐車場(有料)をご利用ください





TARO OKAMOTO MUSEUM OF ART, KAWASAKI

TARO

川崎市岡本太郎美術館広報誌
2024 年 10 月・11 月・12 月 Vol. 88





岡本太郎《太陽の鐘》1966年 FRP(解説:内面)

Contents 目次

川崎市市制100周年周年・開館25周年記念
「岡本太郎に挑む 浅井裕介・福田美蘭」展
企画展
「第28回岡本太郎現代芸術賞(TARO賞)」
イベント情報 ほか

本年、川崎市岡本太郎美術館は開館25周年を迎えます。「多面体・岡本太郎一哄笑するダイナミズム展」が最初の展覧会でした。タイトルの「多面体」が示すように、岡本太郎は画家という範疇を大きく飛び越え、実に多くのジャンルで活躍しました。絵画、彫刻、写真、モニュメント、さらにエッセイ、デザイン等々。そしてどのジャンルでも卓越した才能を発揮します。また、展覧会にとどまらずテレビ、雑誌などにも登場し、広く美術の魅力と可能性を訴えました。「芸術は爆発だ」は、芸術による人間の魂、精神の覚醒を、より多くの人々呼びかけるメッセージでもあったでしょう。この太郎スピリットを、これからも発信し続ける美術館でありたいと思います。

(館長 土方明司)

浅井裕介

Comment コメント — Yusuke Asai

生命力の塊であり、芸術の前に人、人の前に生物であらうとするような太郎さんの力強い筆跡とその言葉の数々に、同じ星に生きているものを作る生物としてどう挑戦し、語ることができるのかとても楽しみにしています。(浅井裕介)



浅井裕介《野生の星》2019年 愛知県美術館蔵



浅井裕介《命の足音—山梨芸術の森》2023年 個人蔵

【表紙】岡本太郎《太陽の鐘》1966年 FRP

《太陽の鐘》は岡本にとって2作目となる梵鐘で、伊豆半島の入口あたりの丘陵地にあった遊園地にかつて設置されていました。*

本作について、岡本は「ボクは人間の精神活動は自然との対決の歴史だと考える。(中略)自然と人間のぶつかり合いを展開したかった」**と語っています。富士山や駿河湾といった伊豆周辺の雄大な自然、そして果てしなく広がる青空と対峙することができるこの小高い丘の上は、自然と、人間の手による作品とを対比させ、互いを引き立たせるのに理想の環境だったことでしょう。

岡本は、さらにこのように言葉を続けています。「こんなボクの考え方を進んでいる、という人があるが、そういうみんなが遅れているのだときめこんでいる」**。当館が岡本を追いかけて始めて早四半世紀が経ちました。果たして、今を生きる私たちは、彼に少しでも近づけたのでしょうか。25周年記念展では、現代作家2人の手をお借りして新たな角度から岡本への接近を試みます。2人の挑戦をぜひ会場でご覧ください。

*現在は前橋市八瀬川河畔緑地に移設されています。

**岡本太郎「響け！太陽の鐘」 国際女性新聞 1966年7月25日
(喜多春月)



川崎市市制100周年・開館25周年記念「岡本太郎に挑む 浅井裕介・福田美蘭」展 関連イベント

① 浅井裕介：公開制作

企画展示室にて浅井裕介さんが作品制作を行います。作品が生まれるリアルな現場をぜひご覧ください！

9月22日(日・祝) 13:30～15:30

会場 企画展示室 **料金** 無料(要観覧料)

対象 どなたでも(小学生以下は要保護者同伴)

※完成した作品は本展にてご鑑賞いただけます。

▼申込フォーム

② ワークショップ「はじまりのゲ—」

手のひらをぎゅっと握りしめて「はじまりの彫刻」を作ります。

10月27日(日) 10:00～11:30

講師 浅井裕介 **会場** 創作アトリエ

対象 小学校4年生以上 **定員** 20名 **料金** 500円＋観覧料

持ち物 汚れてもいい服装、タオル、飲み物

申込 Web受付(9月25日(水)10:00～10月3日(木)17:00、抽選制)



浅井裕介《星、飛び散ル》2024年 制作の様子
(金津創作の森美術館)

③ ワークショップ 「美術館と生田緑地のお散歩」

自然や生命をテーマに創作する浅井裕介さんと美術館や生田緑地のなかを散歩するイベント。浅井さんのお話を聞きながら、歩いた場所について考察、記憶し、自然のなかで時間を共有します。

10月27日(日) 13:30～15:00

講師 浅井裕介

会場 美術館内、生田緑地内

対象 高校生以上

定員 20名 **料金** 500円＋観覧料

持ち物 歩きやすい服装と靴、タオル、飲み物

申込 Web受付(9月25日(水)10:00～10月3日(木)17:00、抽選制)

備考 荒天の場合は美術館内のみにて行います。

▼申込フォーム



会期：2024年10月12日(土)～2025年1月13日(月・祝) 川崎市市制100周年・開館25周年記念 「岡本太郎に挑む 浅井裕介・福田美蘭」展 Challenging Taro Okamoto: Yusuke Asai & Miran Fukuda

休館日：月曜日(10月14日、10月21日、10月28日、11月4日、11月11日、1月13日を除く)、
10月16日(水)、12月29日(日)～1月3日(金)
観覧料：一般1,000(800)円、高・大学生・65歳以上800(640)円、中学生以下は無料
※()内は20名以上の団体料金

川崎市市制100周年、そして当館の開館25周年を記念して、浅井裕介(1981-)と福田美蘭(1963-)の2人の現代作家による展覧会を開催します。常設展示室と企画展示室の双方で開催する特別な展覧会です。

浅井は土、水、小麦粉、テープ、ペンなどの身近な素材によって、あらゆる生物の根源を想起させるような神話的世界を描く作家です。展覧会が開催される各地で採取した土を絵具にし、現地の人々と協力して大規模な作品を制作するなど、土地に根ざした作品を手掛けることでも知られています。

福田は、芸術や文化、現代社会への批評的なまなざしを可視化する作家です。綿密なりサーチと福田ならではのウィットに富んだ視点に基づく作品は、鑑賞者へ物事に対する新たな視点をもたらします。今回は、福田がいう「生真面目」な岡本太郎に、全点新作で挑みます。

本展では、アートシーンの第一線で活躍する2人の作家が、岡本太郎と関連づけた自作を企画展示室に展示します。本展のために、浅井は川崎市内で採取した土を絵具にして巨大な新作を制作します。福田は新作を展示するほか、岡本の作品によるインスタレーションを展開します。また、常設展示室では、二人の作家がそれぞれ独自の視点で選んだ当館収蔵の岡本作品を紹介します。

芸術一家に生まれ、青年時代に哲学や民族学を学んだ岡本太郎は、執筆活動で自身の思想を深めながら、絵画・彫刻・工芸・デザインなどの既存の枠組みを超えて活躍をしました。本展は、そうした岡本の表現・思想の多面性を、世代や表現方法の異なる2人の現代作家の視点で見直す機会でもあります。互いに触発しあうことで見えてくる、三者それぞれの新たな一面をぜひお楽しみください。



岡本太郎《挑み》1980年
川崎市岡本太郎美術館蔵

協力：ANOMALY、DNP大日本印刷、
株式会社フェリシモ「ミュージアム部」

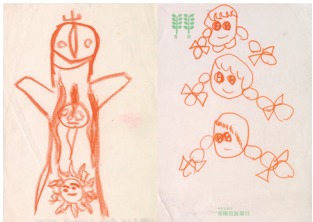
Comment コメント — Miran Fukuda

私がこの展覧会の準備を進めながら度々考えたのは、岡本太郎は画家であるか、ということだった。(中略)晩年の絵画は絵画のしつらえがあろうと、それは自らの生き方全体の哲学であって、いわゆる絵画として見るべき要素を探してはならないように思われる。それはひたすら自らを矛盾の中に奮い起たせて生きていくための外界に対する緊張であり、そこには人間的な悲しみや苦しみを抱えている精神を隠さず鏡のように映し込む、彼本来の誠実さがある。

さてこの生真面目な人に挑むということは並大抵ではない。私がある時々に感じた岡本について、自然体で作品にしていこうと思う。(福田美蘭 作家コメントより抜粋)



福田美蘭《夜》2024年 作家蔵



福田美蘭《7歳のときの落書き》1970年
作家蔵

会期：2025年2月23日(日)～4月13日(日) 「第28回岡本太郎現代芸術賞(TARO賞)」

休館日：月曜日(2月24日、3月24日、3月31日、4月7日を除く)、2月25日(火)、3月11日(火)、
3月12日(水)、3月21日(金)

観覧料：一般700(560)円、高・大学生・65歳以上500(400)円、中学生以下は無料
※()内は20名以上の団体料金 ※常設展もあわせてご覧いただけます。

時代を創造する者は誰か！

1954年、岡本太郎43歳のときに出版された『今日の芸術』。この本には、「時代を創造する者は誰か」というサブタイトルがつけられていました。

1996年、岡本太郎没、享年84歳。その直後、岡本太郎記念現代芸術大賞(2006年岡本太郎現代芸術賞に改称)、通称「TARO賞」が創設されました。彼の遺志を継ぎ、まさに「時代を創造する者は誰か」を問うための賞。

今年は第28回をむかえます。芸術の新しい可能性を探る、「ペラボーな」(太郎がよく使った言葉です)作品をご覧ください。



主 催：公益財団法人岡本太郎記念現代芸術振興財団・川崎市岡本太郎美術館
審査員：榎木野衣、土方明司、平野暁臣、山下裕二、和多利浩一(50音順)